

学校教育目標		一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに主体的に生きる子どもの育成～	
a ミッション	●伝統により一層の磨きをかけ、安心と活力のある学校づくりを推進し、地域・保護者に信頼される学校の創造	a ビジョン	●夢や志を抱き、自己肯定感を持って仲間と力を合わせて主体的に学ぶ生徒 ●生徒の夢の実現を後押しできる専門性と人間性を兼ね備えた教職員 ●挨拶・歓声・歌声は響き渡り、生徒・保護者・地域が自慢でき誇りたくなる学校

尾道市立栗原中学校

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
グローバル社会を生き抜く力の育成	学力の向上	意欲を持ち、学習に主体的に取り組む生徒を育てる。	①HR学習として「視写」を行う。 ②課題発見・解決学習を通して主体的に学習に取り組ませる。 ③自己肯定感・達成感を持たせる授業改善を行う。	①視写をした内容について記述できる生徒 ②「主体的な学び」に関する生徒アンケートの肯定的回答 ③自己肯定感に関する生徒アンケートの肯定的回答	① 80%以上 ② ア 80%以上 ③ イ 60%以上 ④ 80%以上	① 65.8% ② ア70.5 ③ イ未実施 ④ 68.2%	① 82.2% ② ア 88.1% ③ 85.2% 全体 85.1	B	①昨年度に続いて、視写に取り組む生徒の割合は非常に高く、全体の94%が集中して取り組むことができている。学習の基礎づくりとして、静かに落ち着いて活動できていることは成果といえる。時間をとるなどして1年生から内容に関する感想なども書けるように指導していくことで読解力につながると考えられる。 ②「課題への取組」「思考力」「表現力」「学習の振り返り」に関するアンケートの結果は、おおむね肯定的だが、目標の80%には達していない。公開研究会に向けて、主体性と規範意識を育成する授業改善を進めている。2学期は、1学期の校内研修をふまえた授業改善を行い、目標達成を目指す。 ③どの学年もアンケート結果は70%弱となっている。自己肯定感・達成感を持たせるために、生徒が全員参加できる授業づくりや、授業だけでなく行事などでも生徒を肯定的に評価することを全職員で継続していきたい。	○	○	○	①①の視写については、活動や指標であり、めあてや目標について検討する必要がある。何を目標に視写をさせるのか、見直しが必要である。 ②これまでの経過から、評価表がシンプルになって良かったが、学力向上を目指すなかで、基礎基本の定着といった目標も欠かせないのではないか。保護者目線で考えると豊かな人間性の育成や生き生きとした学校生活を大切にすると同時に豊かな学力も学校選択につながる大切な要素ではないか。 ③自己肯定感にも係わるが、アンケート形式の調査ではなく、ルーブリックのような、判定基準を示してポートフォリオの活用を通して自己評価させることを検討してはどうか。 ④今年度になって2回授業を参観したが、授業規律は守られていると感じた。 ⑤学力調査の各教科の分析された課題が、職員間で共有されていると良い。教科担当任せでなく、研究部の体制のなかで取り組まれると良い。 ⑥試験を受ける様子として、無答とかあきらめとかがなければ良い。 ⑦不登校対応に保健室登校や、別室登校の取り組みは難しいか。	①本校の視写の取組は長年継続されており、生徒や職員にも定着している。取組の意義として、読解力を上げる。表現力の育成への効果、朝取り組むことで、スムーズな授業のスタートにつながることで、集中力の向上などがあるが、今後も繰り返し、職員間で意義を共有化して取り組む。 ②ア研究授業による授業改善を組織的に進め、主体的な学びの推進を図る。単元を貫く課題や授業のめあてとまとめ、毎時間の振り返りを大切に、深い学びにつなぐ。 ③イ記述式の問題への取組では、定期試験等で、入試問題等を取り入れ、思考力・判断力・表現力を評価する授業を実施し、新たな指導につなげる。 ④自己肯定感の向上のためには、1学期に効果のあった「えいじゃんSANSАがりコンテスト」や「体育大会」等の成功体験を大切に評価する取組を継続し、文化祭や生徒会活動、新人大会や修学旅行の機会を有効に取り入れる。
	豊かな心の育成	思いやりを持ち自他を大切にするとともに、目標を持ち一生懸命(主体的・協力的)に活動する生徒を育てる。	①不登校及び不登校傾向の生徒への取組の充実を図る。 ②特別支援の視点からの生徒へのアプローチを図る。(関係機関との連携) ③道徳の時間を要とした道徳教育の更なる充実(学習活動や体験活動など「道徳の時間」を結びつけた授業の実践)	①新たに不登校となった生徒の数 ②校内研修の実施 ③生活アンケートの道徳の項目で肯定的回答	① 0(ゼロ) ② 年2回 ③ 90%以上 ④ 89.2%	① 0人 ② 8月に1回実施 ③ 89.2%	79.7%	C	①新たに不登校になった生徒はいない。しかし、昨年度より欠席数が増えた生徒や連続して欠席する生徒がいることから、今後も全教職員で生徒の状況把握に努めることが必要である。 ②8月にSCによる特別支援の視点を踏まえた校内研修を実施した。SCの専門的な立場から指導・助言を受けることで、教員の指導力の向上に向けた取組を行うことができた。今後は、学んだ知識やスキルを、どのように教育実践に生かしていくかが課題である。 ③生徒アンケートでは、「道徳の授業では大切なことを学んでいると思います」と肯定的に回答した生徒は89.2%である。昨年度(83.6%)と比較し、5.6%向上している。その理由として、生徒の課題や実態、行事などと関連させた教材の工夫を行ったことが考えられる。今後は、道徳の授業で学んだことが実生活に結びつくような指導の工夫が必要である。	○	○	○	①引き続き、不登校生徒の居場所づくりと共に、教室の受け入れ環境づくり・人間関係づくりについて取り組む。 ②2学期の生徒理解に活かせるように、7月末にスクールカウンセラーを講師に、発達障害、あるいはその傾向にある生徒への対応をテーマに研修を行った。12月には、不登校をはじめ様々な課題を抱える生徒と通じ合うための面談やコミュニケーションの手法を学ぶ研修を実施する。 ③道徳の授業と教科、生徒会活動、学校行事との関連を整理し、道徳授業の導入と振り返りでは、自分自身の実生活に立ち返らせるように授業の構成を組み立てる。	
	魅力的な学校づくりの推進	生徒が栗原中学校に愛着と誇りを持ち、地域や保護者から信頼される学校づくりを行う。	①小学校6年生を対象として出前授業等の交流を図り、本校に魅力を伝える。 ②本校の生徒や保護者に対してアンケートを行う。	①校区内の小学校から本校へ進学する生徒の割合 ②(生徒)「自分の学校には自慢できることがあります。」の割合(保護者)「栗原中学校は信頼できる。」の割合	① 90%以上 ② (生徒) 80%以上(保護者) 80%以上	①未実施 ②生徒: 101% 保護者: 91%	①未実施 ②96%	B	①未実施 ②(生徒)学校平均で目標である80%を越えることができてきた。学年別に見ると1年生:78.9%、2年生:83.2%、3年生:81.0%となっており、経年変化で見ると同時期に比べて2年生は+13.2%、3年生は+9.5%となっている。えいじゃんSANSАがりでの入賞や体育大会での応援合戦の成功したことにより、栗原中学校の自慢できることとして肯定的な評価が増えたと考えられる。(保護者)学校平均で目標である80%には届かなかった。学年別に見ると1年生:65.8%、2年生:67.1%、3年生:77.9%となっており、経年変化で見ると同時期に比べて2年生は+10.4%、3年生は+3.8%となっている。23年生については、落ち着いて学習に取り組む雰囲気や醸成されつつあること、行事等での生徒の様子を見て肯定的な評価が増えたと考えられる。	○	○	○	①本校へ進学する生徒の割合については、学校へ行こう週間や、オープンスクール、出前授業、入学説明会を充実させると共に、生徒会による学校紹介などを通して、現役中学生がいまいると学校生活を送っていることを伝える取組を行う。また、日々の様子を学校だよりやホームページで積極的に発信する。小中連携や公民館、民生児童委員の会等と連携やあいさつ学校の様子を伝えていく。 ②7月実施の学校生活についてのアンケートでは、昨年度と比較して、生徒は14/21、保護者は14/18の質問項目の肯定的評価が向上している。この結果をより向上させるよう結果を丁寧に分析し、効果のあった取組を継続する。また学年比の分析により課題のある学年については、評価の工夫をすることで共に自信を持たせる経験を大切にしたい。	
教職員の働き方改革の推進	職員全体が意識を持って取り組み、個々の教職員が業務改善に積極的に取り組む。	働き方改革に向け、各教職員の状況をもとに個人目標を設定する。	昨年度と比較し、全教職員の勤務時間の改善	100%	64.7%	64.7%	C	①4月から8月の超過勤務時間の合計について昨年度と今年度と比較し、改善した教職員の割合が64.7%であった。 ②超過勤務時間が45時間/月以下の教職員の割合が昨年度36.9%から今年度48.5%と改善された。 ③超過勤務時間が80時間/月を超える教職員の割合が10.8%で昨年から変化していないことは課題である。	○	○	○	①昨年度と比較して、超過勤務の割合は減少しており、職員の意識も高まりつつあるので、引き続き、定時退校日の徹底や取組を大切にしたい。 ②超過勤務時間の縮減のための行事の精選や、業務改善の工夫を進める。分掌毎の仕事分担の責任を明確にし、個人で取り組む業務とチームで取り組む業務を整理し、業務の効率を上げ、子供のための時間を確保する。		

【自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成)  
C: 60≦(もう少し) <80  
B: 80≦(ほぼ達成) <100  
D: (できていない) <60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。